

「本山寺山森林づくりの会」活動報告

武田壽夫(文、写真)、倉谷邦雄(写真)、山 國(写真)

日 時：2018(平成 30)年 4 月 29 日(日) 9:30～15:30

気 象：天候=晴 (12 時の気温：20℃)

活動エリア：45 林班に-03(モニタリング調査区とその周辺)

活動内容：天然林で以下に取り組み

(過密な常緑広葉樹の除伐、枯損木の除伐)

(一帯の林床整備と倒木・切り放し残置木の処理)

参加者：石原順子、泉家恵子、斧田一陽(午前中)、倉谷邦雄、後藤和子、武田壽夫、宮本 廣、

山 國

(計 8 名)

<事業年度は今日からがスタート>

林野庁の交付金対象事業としては今日が新年度の初日の活動。採択ズレ込みは毎年のごと、定例の活動日から 2 週遅れの実施とすることで、一日分の交付対象日を確保出来る

(必要物品購入の原資を確保するには、こんな心配りも欠かせない)

さて、空は五月晴れを先取りしたような**快晴、風は柔らか**で空気感**は北斎描く「凱風快晴」の趣**きである。冬場の活動は標高の低い 45 林班を選んで進めていて、今日は「に-03」の里道脇、モニタリング調査区とその周辺での作業。**「安全第一」、除伐は切り過ぎて逆に風害を蒙らぬよう、また、林床は乱雑にならぬよう、秋の記録写真撮りの「見映え」も意識して進める**。絶好天に恵まれ、ヒヨドリの声を聞きながらの昼のモグモグ弁当タイムも心和む一時。

<それなりに「捗った」一日>

活動地は平坦な尾根の天然林から下の人工林に繋がる一帯で、モニタリング調査区を下に降りる程傾斜は増してくる。手入れが進んでいない調査区の周辺は大径の倒木も重なっていて、手に余る「大物」は自然の成り行きに任せるほかない。また、広葉樹は幹を切ったあとが難物で、日照を求めて上の方ばかり繁っている**ので枝掛かりしてそのままでは倒れてくれない**。引き倒してからも棚積みには枝を切らねばならず、これはこれで厄介である。加えて、倒木で頭を抑えられている広葉樹に鋸を入れた際、幹が**刎ね返る**ケースがあり、これには重々要注意(倒木からの先端を先に片付けるなど手順が大事)。

あれやこれやの作業ぶりは写真をご覧くださいとして、30m×50m=0.15ha の範囲の整備を終えた。

<季節の山だより—新芽続々>

季節は進み、本山寺山でも若々しい新芽がアチコチに顔を出す、郡上八幡からは「タラの芽」到着。

(本文 以上)

【①昼食風景—撮影は山 國氏】



【②右の木を左の木に縛って矯正する】



【③手前の倒木に鋸を入れる】



【④手前の倒木は切り落とし成功】



【⑤玉切りした倒木を棚積みへと運搬中】



【⑥2人掛りで倒木処理】



【⑦広葉樹の伐倒は方向をロープで調整】



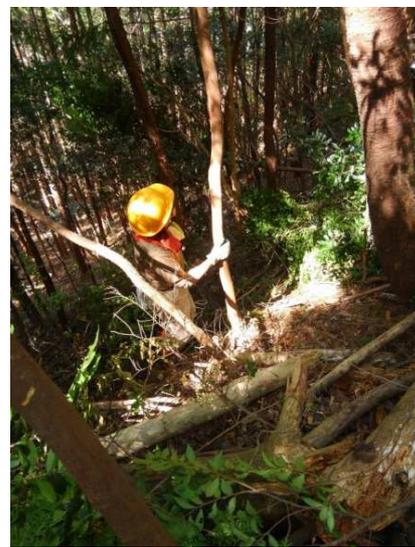
【⑧広葉樹の伐倒中】



【⑨作業後一調査区の一部】



【⑩樹種を確認しながら作業を進める】



【⑪そこここに顔を出す「新芽」】



【⑫郡上八幡から「コシアブラの芽」】

